

ICU桜並木再生プロジェクト（2018年度実施報告）

2013年度からマクリーン通りの桜の植替え（伐採・植樹）を実施してきましたが、前回の樹木診断から約6年が経過していること、また近年台風等により枝が折れる等の被害が多くあることから、再度樹木診断を実施しました。この調査において、桜の老朽化が予想以上に進んでいることから、2018年度はこれまでの桜並木再生プロジェクトの植替計画を改めて検討することし、例年のようなマクリーン通りの桜の植替えは行いませんでした。

一方で、マクリーン通りの桜だけでなく、正門付近やマクリーン通り北側の桜を含め全体に、でんぐ巣等生育に阻害をもたらす症状や枯れ枝やぶら下がり枝等枝が落下する危険性のあるものが多く見られましたので、樹木の健全な育成や歩行者の安全性確保の観点から、2018年度はでんぐ巣に罹病している枝や枯枝等の除去（合計71本）*1を実施しました。（資料1、2参照）

なお、桜再生プロジェクトにおける今後の植替計画については、2018年度に発足しました「ICU自然環境保全プロジェクト」*2において改めて検討、策定し、2019年度から伐採・植樹を実施する予定であります。今後の植替計画については、別途ご報告いたします。

*1 枝除去に要した費用は1,891,000円(税込)で、大学で負担。

*2 「ICU自然環境保全プロジェクト」

2018年10月からスタートし、富岡徹郎総務理事が委員長となり、学外有識者、教職員、卒業生、学生等が参加し、ICUキャンパスの自然を次の60年に向けて保全・維持し続けるための基本方針、この基本方針に基づく具体的な管理整備計画、を策定すること等を目的としたプロジェクト。



↑
枯れ枝



↑
てんぐ巣病



- 凡例
- テングス病
 - 折れ・枯れ